

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
(仮称)アーバンホテル京都四条 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1	開口部遮音性能			1.0	1.00	1.0	0.30	
2	界壁遮音性能			-	-	2.0	0.30	
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	1.0	0.20	
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	1.0	0.20	
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1	室温			3.0	0.38	3.0	0.57	
2	外皮性能			3.0	0.25	3.0	0.43	
3	ゾーン別制御性		レベル3程度の空調ゾーニング	4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1	昼光率	●自然 A(全国版準用)	昼光率 \geq 2.5%、客室の昼光率 \geq 2.0%	5.0	0.30	5.0	0.30	
2	方位別開口			5.0	1.00	5.0	1.00	
3	昼光利用設備	●自然 B(推奨内容)		-	-	-	-	
3.2 グレア対策								
1	昼光制御	●自然 B(推奨内容)		2.0	0.30	3.0	0.30	
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1	化学汚染物質		告示対象外及びF☆☆☆☆の建材を使用	5.0	0.50	5.0	0.63	
4.2 換気								
1	換気量			3.0	0.30	3.0	0.38	
2	自然換気性能	●自然 A(全国版準用)		3.0	0.50	3.0	0.33	
3	取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理								
1	CO ₂ の監視			3.0	0.20	-	-	
2	喫煙の制御			3.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1	広さ・収納性			3.0	0.40	2.5	0.60	
2	高度情報通信設備対応		客室にLAN設備を整備	3.0	-	1.0	0.50	
3	バリアフリー計画	●大切 D(独自基準)		2.0	-	4.0	0.50	
1.2 心理性・快適性								
1	広さ感・景観 (天井高)	●とも C(独自加点)	事務室の天井高3.5m、客室の天井高2.5m	3.0	0.30	3.5	0.40	
2	リフレッシュスペース			3.0	-	4.0	0.50	
3	内装計画	●自然 D(独自基準)		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理								
1	維持管理に配慮した設計			3.5	0.30	-	-	
2	維持管理用機能の確保		清掃員控入室の設置、倉庫・ゴミ置場の設置、設備点検が容易	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震・制震・制振								
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数								
1	躯体材料の耐用年数	●大切 A(全国版準用)		3.0	0.30	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性					3.4	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備			非常用電源の設置、電源設備の地下設置無し	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			精密機器の地下設置無し、ケーブルTV加入、無停電装置	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					2.8	0.30	2.4	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり					-	-	1.8	0.50	
1	階高のゆとり				3.0	-	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					2.8	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		2.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	美観地区の認定を得ている	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.86 6地域	4.4	0.20	-	-	4.4
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BE][BEIm] = 0.70	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	
4.1	モニタリング				3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				省水型機器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.5	0.60	-	-	3.5
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	グリーン調達品目資材を使用、地域産木材を使用	4.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	分別が容易、内装材と設備の取り外しが容易、再利用可能ユニットを使用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	-	
1	消火剤			不活性ガス消火剤を使用	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮				ライフサイクルCO2蓄出率が74%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮					2.0	0.33	-	-	2.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	1.00	-	-	
2	振動				-	-	-	-	
3	悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制					1.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制				1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			ガイドライン項目の過半を満たす、広告物照明の配慮事項の過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」ともに使う 「自然」:自然からつくる